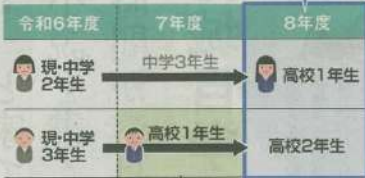


大阪府 高校授業料無償化スタート

個々を生かす私学教育

制度開始に向けた段階的な措置

令和8年度に完全無償化



年収別の保護者負担額	世帯の子の数	世帯収入の上限			授業料負担
		590万円未満	590~800万円	800~910万円	
1人	無償	20万円	48万円	60万円(対象外)	
2人	無償	10万円	30万円		
3人以上	無償	無償	10万円		

60万円を超える授業料は
学校が負担 (590万円未満) / **保護者が負担** (800~910万円以上)

世帯収入の上限撤廃

大阪府が令和8年に本府導入する新たな高校授業料無償化は、従来の制度で設けられていた世帯収入の上限を撤廃し、私立高の年間授業料を最大63万円まで公費で賄い、超過分を学校が負担する仕組みとなっている。府の制度に参加することを選んだ学校は、通商制や専修学校などでもあり、府内132校で、大阪府外でも和歌山や兵庫県など2校の学校で適用される。

大阪府の制度なので対象は府民のみとなっており、府外の生徒が府内に通学する場合は適用されない。制度は令和6年度から段階的に対象となる学年を広げ、8年度にはすべての学年で適用される予定だ。今年の中学3年生の専修高、高校1年生は世帯年収や人数により保護者負担がともなうが、2、3年生では全世帯で無償となる。また、無償化が適用される範囲は主に授業料に、入学料や制服代、修学旅行の積立金などは無償化の対象にならない。

どんな制度?

大阪府民のみ、現中3生は高校2年から適用

新型コロナウイルス禍以降、特にそぞろが世の中の変化が非常に速くなっていることも見逃せません。世界や社会のニーズが激変し、日本という国の立ち位置が変わってきていることを保護者の皆さんも感じていらっしゃると思います。そうした変化に対応し、必要な学びを提供するスピード感もまた私学の魅力といえるでしょう。新たなこ

少子化が進み、子供たちの個性が尊重されなければならぬ環境になってきています。平等が担保される公教育も素晴らしいですが、私学は良質な学びで平等ではありません。生徒一人一人の個性を重んじ、パーソナリティを生かす教育を提供することができ



私学教育の魅力について語る大阪私立中学校高等学校連合会の草島葉子会長(左から2人目)

とにチャレンジできる環境があります。変化に対応できる理由の一つは、先生の採用が公立と私学とでは違う点が大きいです。1つの採用基準で2倍は採用する公立に対し、私学は

ニーズの変化に即対応

変化に対応できる理由の一つは、先生の採用が公立と私学とでは違う点が大きいです。1つの採用基準で2倍は採用する公立に対し、私学は

生徒フォロー態勢準備

高校授業料の完全無償化で選択の幅が広がり、私学を早い段階から検討する家庭が増えていると思います。私は子育てにはある程度のレベルは必要と思っています。公立より私学の方が選択肢になる路線が多く、レベルに乗りやすいという点も大きな理由です。もう一つ大事な点として、来年度から新課程入試として大学入試が新しくなると

大阪府の高校授業料の完全無償化施策が令和6年度からスタートした。公立だけでなく私立の高校も順次、無償になる施策で、今春入試では大阪府で私立高を第一志望とする受験者は31・64多となり、過去20年で初めて9割を超えるなど、私立人気が高まりをみせている。私学の教育は公立とはどう異なるのか。関西高校の校長も務める大阪私立中学校高等学校連合会・草島葉子会長に聞いた。

時代に向って、生徒に必要な指導者をバリエーションに広げ採用できます。さまざまな指導者との出会いから生徒はタイプバイタイプ(多様性)を感じることのできると思います。例えば、興国高にはヨーロッパサッカーでプロとして活躍していたコートを起して、フランス語と英語、日本語を交えた特別授業をしています。

大阪私立中学校高等学校連合会 草島葉子会長